

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、スーパーが底堅い状況のなか、百貨店が緩やかに持ち直しつつあるほか、観光も緩やかに回復しつつあることなどから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が足踏みの状況にあるほか、電気機械、パルプ・紙が弱含んでいることなどから、全体としては弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	横ばいの状況にある	弱含んでいる	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、衣料品等に持ち直しの動きがみられるほか、飲食料品が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、酒類を含む飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、飲食料品や医薬品が順調であるほか、化粧品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、省エネ性能の高い冷蔵庫や洗濯機等に動きがみられるものの、テレビやレコーダー等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、園芸用品やペット用品等に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。百貨店は、来店客数が回復傾向にあるなかで、衣料品等に持ち直しの動きがみられるなど、全体としては緩やかに持ち直しつつある。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を上回っている。観光は、団体客や外国人旅行客の増加がみられ、緩やかに回復しつつある。国内旅行は、全国旅行支援の効果などにより持ち直しており、海外旅行は、水際対策の緩和により持ち直しの兆しがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加によって衣料品や化粧品等の売れ行きがよい。特に、入学式や卒業式を通常どおり開催する教育機関が増えたためセレモニースーツの売上が伸びた。(スーパー)
- 節約志向の高まりを背景に、牛肉よりも、比較的割安感のある鶏肉を選ぶ消費者が増えている。(スーパー)
- 冷凍食品の売上が伸びている。特に、昼食代を節約するため自宅で弁当を作る方が増えていることから、弁当に使いやすい商品が人気となっている。(スーパー)
- 行楽需要や観光客の増加などを背景に来店客数が増え、おにぎりやパン類、ペットボトル飲料などの売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 県内で宿泊する観光客が増えており、宿泊施設周辺の店舗を中心にアルコール飲料の売上が伸びた。(コンビニエンスストア)
- 花粉症対策商品が伸びているほか、取扱いを強化している冷凍食品の売れ行きがよい。(ドラッグストア)
- マスクを外す機会が徐々に増加しており、メイク関連商品に売上回復の兆しがみられる。(ドラッグストア)
- 省エネ性能が高く家事の省力化にも資する高付加価値商品の需要が高まっている一方、生活様式の変化によってテレビやレコーダーの動きが鈍い。(家電大型専門店)
- コロナ禍で外出できなかった時期に、ガーデニングを始めた方やペットを飼い始めた方が多く、園芸用品やペット用品の需要が定着しているほか、全国的な強盗事件を受けて防犯グッズが伸びた。(ホームセンター)
- ドラッグストアやスーパーなど他業態との競合が激しく、洗剤やトイレトペーパーの売上が減少しているほか、除菌ティッシュについても、感染症への警戒感が薄まったことで売上が落ちている。(ホームセンター)
- 感染拡大の落ち着いた背景にシニア層の来店客数が戻ってきているほか、催事が好調で来店客数全体が増加。外出機運の高まりなどから衣料品やハンドバッグ等に動きがみられる。(百貨店)
- 受注は新型車発売の効果により比較的好調に推移しており、消費者物価の上昇による買い控えはみられていない。(乗用車)
- 半導体不足などによる生産制約の改善により、登録台数が回復しつつある。(乗用車)
- 大都市圏からの団体客が多くなっているほか、国際線の再開により外国人観光客も増加している。(観光)
- 宿泊者数は、全国旅行支援の効果もあってコロナ前の水準に近づいている。(観光)
- 割引率の低下後も全国旅行支援が旅行需要喚起の要因となっているほか、ウィズコロナの浸透もあって旅行者数は順調に回復している。(旅行)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

化学は、一部に受注の減少がみられることから、足踏みの状況にある。電気機械は、電子部品に弱さがみられることから、弱含んでいる。パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては弱含んでいる。

- 医薬品は、国内需要、海外需要ともに順調であり、生産量は増加している。(化学)
- 自動車の生産調整を行っていた影響がみられており、生産量は減少している。(化学)
- 中国向けのスマートフォン電子部品について、引き続き在庫調整が行われていることから、生産量が減少している。(電気機械)
- チラシやカタログのペーパーレス化が進んでいるなか、価格転嫁の影響もあり、印刷用紙の需要が減少している。(パルプ・紙)

■ **雇用情勢** 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はこのところ低下しているものの、新規求人数は前年を上回っており、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 有効求人倍率の低下は、求人提出時期のずれや、前年の大型求人の反動などによるものであり、人手不足の傾向は続いている。(労働局)
- 感染症の影響緩和や物価高などから、高齢者等の求職活動が活発になっている。(労働局)
- 旅行者の増加から、人手不足感が高まっている宿泊業で求人数が増加している。(労働局)
- 原材料価格の高騰により厳しい状況が続いているものの、人員を確保するために今年度はベースアップを実施する予定である。(食料品製造業)

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業で前年を下回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業及び非製造業で増益見込みとなっており、全体としても増益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲のいずれにおいても前年を上回っている。

- 住宅価格の上昇などによって購入を控える動きは続いているものの、貸家については、相続税対策や古い物件の建て替え需要がみられる。(専門サービス業)

■ **公共事業** 「前年度を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、市町村は前年度を上回っているものの、国は前年度並みとなっており、独立行政法人等及び県は前年度を下回っていることから、全体としても前年度を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
高知県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。